

令和3年度放課後等デイサービス 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：令和4年2月15日

事業所名：育ちの広場すてっぴ

保護者等数26 回収数26 割合 100%

区分	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	77%	15%	0%	8%	狭くても工夫されている 密で感染しないか心配
	2 職員の配置数や専門性は適切である	85%	8%	0%	8%	安心して通所できる 職員によって専門性がバラバラ
	3 事業所の設備は、スロープや手すりの設置などバリアフリー配慮がなされている	69%	15%	0%	15%	
適切な支援の提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で個別支援計画が作成されている	100%	0%	0%	0%	的確に作成されている
	5 活動プログラム*が固定化しないよう工夫されている	92%	8%	0%	0%	必要な内容で取組まれている
	6 障害のない子どもと活動する機会を設けている	27%	8%	0%	65%	一緒に過ごすことはあると思う
保護者への説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がされている	100%	0%	0%	0%	非常に丁寧
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができている	92%	8%	0%	0%	連絡帳が分かりやすい 適切なタイミングで困り感や問題行動に学校や家庭と連携してもらった
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	100%	0%	0%	0%	どの職員も話しやすい
	10 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	62%	4%	0%	35%	
	11 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	92%	8%	0%	0%	迎える職員から担当の職員に伝達されたか不安な時がある
	12 定期的に会報やホームページ等で、活動や業務の情報を子どもや保護者に発信している	100%	0%	0%	0%	非常に詳しく参考になる
	13 個人情報保護に十分注意している	88%	8%	0%	4%	
非常時等の対応	14 緊急時等の対応マニュアルを保護者に周知・説明している	100%	0%	0%	0%	
	15 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	100%	0%	0%	0%	
満足度	16 子どもは通所を楽しみにしている	96%	0%	0%	4%	予定表を見て楽しみにしている 職員を見ると喜ぶ姿が見られる
	17 事業所の支援に満足している	100%	0%	0%	0%	子どもの利益優先が伝わる 適切な支援アドバイスが得られ満足している

この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け放課後等デイサービス評価表」により事業所評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

※10%以上増減のあったものに矢印をつけました。数値が改善されないものに四角印をつけました。

令和2年度放課後等デイサービス 事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和4年2月15日










職員数：正規5非常勤8

事業所名：育ちの広場すてっぴ

回収数：正規5非常勤7

回収率：92%

区分	チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	50%	42%	8%	マンツーマンを増やしてしまった。グループ分けして室内利用を工夫した。	マンツーマン増をこれ以上増やさない。
	2 職員の配置数は適切である	58%	25%	17%	マンツーマンが必要な児童には職員を配置した。	未経験の職員が増える中、職員増だけの対応でなく療育技術の向上を図る。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	75%	17%	8%	基準は満たしているが、洗面台等の改善がある。	新事業所経費の捻出で設備改善に手が回らなかったため今年度は改善する。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	83%	17%	0%	職員向けには秋にも自己評価を行った。	自己評価活動を有効に利用していく。
	5 アンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	92%	8%	0%	少しずつ改善している。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	0%		
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	75%	25%	0%	第三者評価を依頼した。	今年度も依頼している。
適切な支援の提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	75%	25%	0%	非常勤向けに研修時間を設けた。研修費補助を行う。	正規はPECS研修などを行っている。研修費補助を行い非常勤にもリモート研修を勧める。
	9 子どもと保護者のニーズや課題を分析した上で、個別支援計画を作成している	100%	0%	0%	非常勤に支援計画を回覧しているが説明できていない。	計画的な非常勤研修（個別研修日の設定など）を検討していく。
	10 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	92%	8%	0%	運営ソフトでアセスメントを共有している。	必要な利用者にはKABC2やSTRAW-Rを実施していく
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	83%	17%	0%		
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	67%	33%	0%	マンネリを脱却する有効な手立てが打てなかった。	担当と担当月を決めて実施計画を提案する機会を作る。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	75%	25%	0%	感染症予防もあり、年2回の外出計画となった。	感染症拡大が収まれば、休日プログラムの設定も改めていく。
	14 子どもに応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成している	100%	0%	0%		
	15 職員間でその日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	0%		
	16 職員間でその日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	83%	17%	0%	非常勤は実践の振り返り時間が保証できない。	翌日打ち合わせで必ず触れる。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	92%	8%	0%	翌日の打合せで課題共有して記録。	実践で教訓化すべきことはHPにも毎回掲載する。
18 定期的に事後評価を行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	0%			
19 療育・創作・交流・余暇支援の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	75%	25%	0%	小学生のスポーツ活動として実践したが、重度の利用者の工夫が不十分。	スポーツやeスポーツなど交流活動は感染予防を考えて実施。	

区分	チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に最もふさわしい者が参画している	75%	17%	8%	管理職が参加。		
	21 学校との情報共有、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	75%	17%	8%	学校連携の中身など日報の備考に加える	相談事業所を通すとタイムリーな連携ができない課題を相談事業所と検討	
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている						
	23 就学前に利用していた事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		17%	8%	新1年生については実施。		
	24 障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、情報を提供している	75%	17%	8%	相談事業所に調整を依頼する。	感染予防を優先する。	
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関の助言や研修を受けている	58%	17%	25%	適当な機会が持てなかった。	感染予防を優先する。	
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない地域の子とも活動する機会がある		18%	27%	公園で自然に交流している。特定の施設と関わる計画はない。	公園でスタッフが仕掛けて、地域の子ともと遊んでいる内容をスタッフや保護者に意識して伝えていく。	
	27 (地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している						
	28 日常的に保護者と子どもの発達の状況や課題について共通理解を図っている	100%	0%	0%	連絡帳や送迎時に報告。		
保護者への説明責任等	29 子育て支援として、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		33%	25%	PTは実施していないが相談には乗っている	運営コストや保護者との合意や契約が必要なので検討を行う。	
	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	0%	運営内容や負担等については契約時に説明している。	契約内容を履行してもらえるようお願いを繰り返していく。	
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている		100%	0%	0%	できる限り電話・来所・訪問の支援を行っている。	
	32 子どもや保護者からの苦情について、迅速かつ適切に対応している		100%	0%	0%		
	33 定期的に会報等を発行し、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	0%	定期通信・HP毎日発信を実施。1600万ビューを得ている。	職員全員が発信者になれるよう努力していく。	
	34 個人情報に十分注意している	100%	0%	0%	防犯のため写真などHPにはアップしない。		
	35 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている		100%	0%	0%	障害や育ちに関する情報を共有できるように努めた。	
非常時等の対応	36 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	50%	25%	25%	感染予防を優先した。	理解啓発に近隣向け刊行物の発行配布を年2回程度行う。	
	37 緊急時対応、防犯、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		100%	0%	0%	保護者マニュアルや実施内容を会報などで連絡。	感染症が収まれば保護者訓練に取り組む
	38 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		100%	0%	0%	毎年2回実施している。	
	39 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	83%	17%	0%	研修会に参加	虐待は支援スキルの無知から生じるので支援研修を徹底する。	
	40 身体拘束について、保護者に事前に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載している	83%	17%	0%	該当児なし	該当児なし	
	41 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	0%	該当児なし	該当児なし	
42 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		100%	0%	0%	回議による文書共有を行う。		

※ 昨年度と10%の増減のある項目には矢印をつけています（但し、増加しても70%未満の結果は省く）

※ 昨年度から数値が低評価で改善しないものは、四角印をつけています。

令和3年度自己評価と保護者評価について 第3者意見

評価日：令和4年2月19日

第3者評価者名：坂根 みどり

事業所名：育ちの広場すてっぴ 放課後等デイサービス

区分	評価	助言
環境・体制整備	<p>保護者の方々の評価が現状維持もしくは上がっているのに比して職員が課題を感じ評価が辛くなっている点から、職員が常に課題意識を持って評価すべき環境の保持に努めていることが伺えます。</p> <p>事業所を継続発展するためには、職員の適正配置と質の向上が求められますが、高評価ながらも保護者からの指摘があり、課題点が見えています。</p>	<p>改善内容に記述がある通り、求められている支援の(質と)量と現状とのバランスは常にフィードバックしながら考えて行かねばならない課題です。ニーズに応える観点としては狭くなりますが、現状をみれば「集団での療育」で力をつける子どもたちを対象にすることを優先すべきだと思います。</p> <p>時間的な制約がある中で実施されてはきていますが、療育技術や対人援助に係る研修や事例研等を今後さらに継続的にされることをお勧めします。</p>
適切な支援の提供	<p>子どもたちの適応行動の状況を図るために標準化されたアセスメントツールを使用したり、活動プログラムの立案等の向上のための工夫を様々なにされたりしている成果が保護者の方々の評価の高さから見て取れます。</p> <p>加えて職員自分自身と職員相互のフィードバックを記録をもとにされているところも高く評価できます。</p> <p>適切で日々の支援に生かすことができる個別の支援計画を作成と実行が、保護者の信頼につながっていることがわかります。</p>	<p>実践のマンネリは、施設が継続していく限り常に生じてくる課題です。多忙の中で実現は難しいかもしれませんが『教材開発』の担当を決めて定期的に検討会や実践交流をするのは経験的にかなり有効です。</p> <p>コロナ禍にあって『障害のない子どもと活動する機会を設ける』のは益々難しいものになっています。</p> <p>以前にはなかった感染というリスクを思うと暫くは見合わせるのも一考かと思います。コミュニケーションに課題のある子どもたちは、まずは大人(この場合は支援者)との個別のトレーニングを充実させ、次に同様の課題のある児たちの小集団のトレーニングを併せて実施する段階的なトレーニングが基本的なところですので、この時期はそれを充実させて、アフターコロナに入った頃から障害のない児との交流方法を改めて考えて実施していくというのが良いのではないのでしょうか。</p>
保護者への説明等	<p>保護者へ、支援の内容や利用者負担についてや支援の内容や日時の対応についての説明責任は概ね果たしていると思えます。子どもや保護者からの『苦情対応』の項目の『はい』が62%ではありましたが『いいえ』が0%、わからないが35%であるところを見ると、苦情という言葉の定義が共通理解として存在するのかが再考された方が良いのではないのでしょうか。</p>	<p>子どもたちの健やかな成長のための支援に欠かせない、保護者の方々との連携活動は、どうしてもコロナ禍で制限され疎通が滞りがちになります。その様な中でも細やかな配慮によって齟齬なく成されている様子が見られますが、年度当初等に実施計画にあった内容がコロナで変更中止となる場合等、迅速に行き渡るアナウンスを今後も大切に成されて行かれる事を期待します。</p>
その他	<p>事業所の自己評価に『虐待防止』がありましたが、大声での威嚇等のパワーコントロールに言及されているところが気になりました。虐待防止の根幹はコミュニケーション支援にあるのは事実ですが、それ以外に多様多角的に見て予防策を考えて行かなければならないと思います。</p>	<p>事業所の様に、対子どもたち、対保護者、対職員相互間でそれぞれ異なったパワーバランスを保たねばならない機関では虐待防止のための多様な正しい意識と実践が求められます。理想的な研修を請け負ってくれる人や機関は多くはありませんが慎重に選択して研修を実施されることをお勧めします。</p> <p>子ども支援、保護者支援等あらゆる人間関係の場面で生かすことが出来るCBT(認知行動療法)の実戦につながる学びをされることもお勧めします。</p>